

名古屋教育・医療記者会同時発表

平成25年5月24日(金)

愛知県がんセンター運用部経営戦略室

担当 辻 電話 762-6111(代)

愛知県病院事業庁管理課 総務グループ

担当 有川、鈴木 内線5153・5154

(ダイヤルイン 954-6306)

愛知県がんセンター研究所の研究成果説明会を開催します。

**「がん細胞の分裂には、がん細胞を分裂させる分子だけではなく、
がん細胞を成長させる分子も関わっていることを発見する。」**

がんの分子標的薬の併用療法の理論的根拠となり、新たな分子標的薬の開発にも繋がることとして期待される、この研究成果についての説明会を、5月28日(火)にがんセンターで開催します。

なお、この研究成果は、世界的レベルの先端研究を掲載する学術ジャーナルの一つ「ネイチャーコミュニケーションズ」に、5月22日(水)に掲載されました。

1 研究成果の概要

がん細胞の分裂制御について詳細に検討した結果、がん細胞の分裂だけではなく、がん細胞の成長(蛋白質や脂質合成によるがん細胞の成熟)を制御する分子もがん細胞の分裂に関わることを明らかとしたものです。これまで、細胞分裂を引き起こす分子や成長を制御する分子を各々狙い撃ちにした薬剤を1種類投与する単剤投与ががんの分子標的治療として行われてきましたが、この研究成果により、複数の分子を標的とし2~3種類の薬剤を投与する、より効果的な分子標的薬の併用療法に理論的根拠を与え、新たな分子標的薬の開発にも繋がるのが期待されます。

2 説明会の開催

(1) 日 時 平成25年5月28日(火) 午後2時から

(2) 場 所 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター1階メインホール
(名古屋市千種区鹿子殿1-1)

(3) 説明者 愛知県がんセンター研究所 発がん制御研究部 部長 稲垣昌樹

(4) 連絡先 同 運用部経営戦略室 担当 辻 電話762-6111(代表)

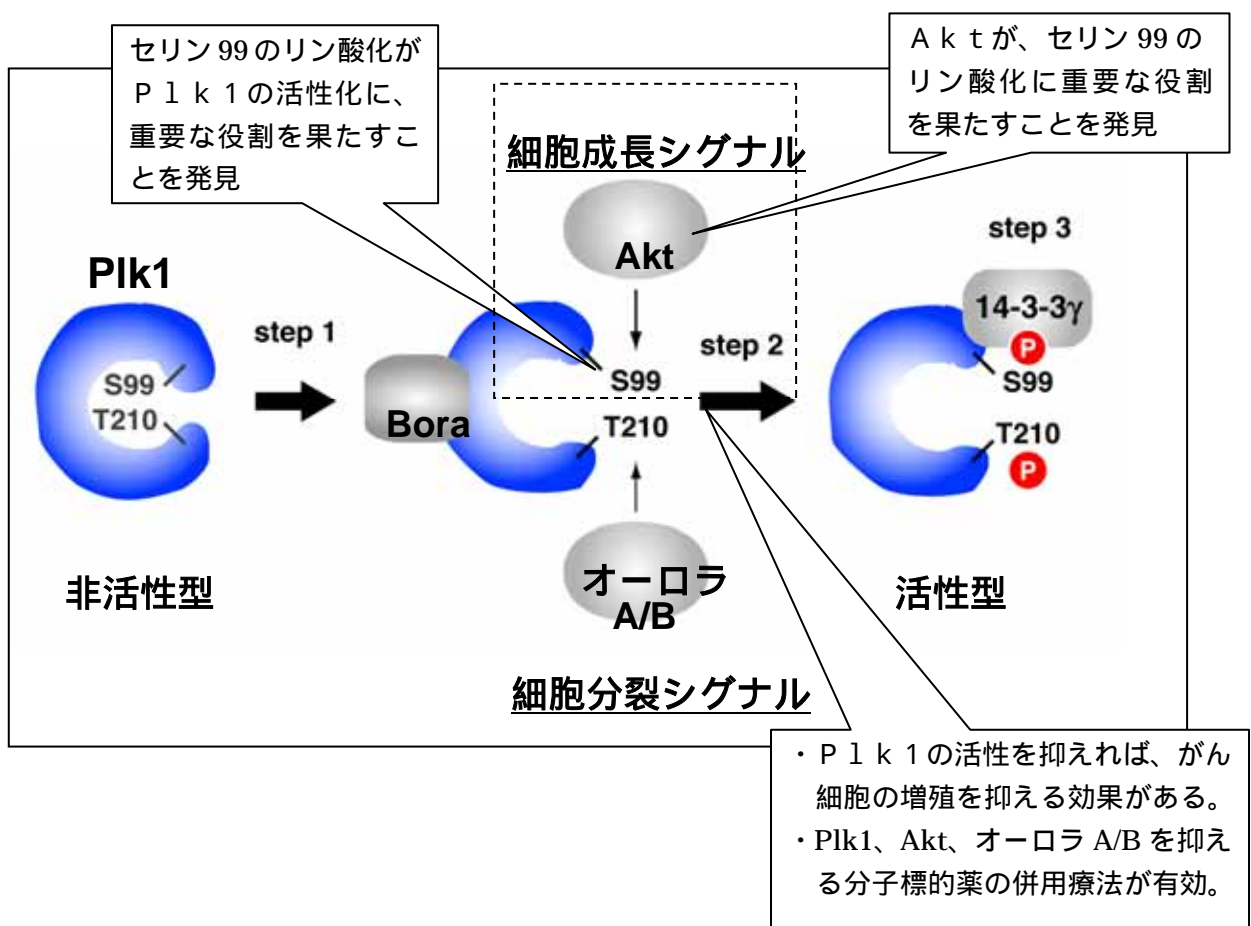
【研究成果の概要】

がん細胞の分裂には、細胞分裂に不可欠な分子である P l k 1 キナーゼ (リン酸化酵素) の高い活性化が必要であり、これを抑えればがん細胞の増殖を抑える効果がある。従来から、「細胞分裂シグナル」では「オーロラ A / B」という酵素を抑えることにより、P l k 1 キナーゼの活性化を抑えられることが分かっていた。

今回、がんセンター研究所のチームは、P l k 1 キナーゼの活性化に「セリン 99 のリン酸化」が重要な役割を果たしていること、このリン酸化が「細胞成長シグナルの中核分子である A k t により行われる」ことを発見した。

この研究成果により、P l k 1 キナーゼ、オーロラ A / B、A k t を標的とした 2 ~ 3 種類の薬剤を投与する「分子標的薬の併用療法」に理論的な根拠を与え、新たな分子標的薬の開発にも繋がることが期待される。

< 概要図 >



【研究チーム】

がんセンター研究所 発がん制御研究部長 稲垣昌樹を始めとするがんセンター研究所職員と外部研究者を含む研究チーム